

時代を拓くソーシャル・キャピタル

(下)

■ソーシャル・キャピタルがもたらす社会的・経済的効果

ソーシャル・キャピタル(以下SC)とは、「信頼」「規範」「ネットワーク」によって形成されている資本という概念であることは前述のとおりである。それでは、その資本が形成されていると、社会や地域にとって、どのような効果が生まれるのか。社会学、経済学等、様々な分野において、その関係性に関する研究が行われているが、そこから導かれる共通項は、「人と人とが信頼や規範に基づいたネットワークを構築している」とは、豊かな生活を送る上で重要である」ということである。

■SCという「価値」の認識から生まれる好循環

SCを醸成するためには、SCという資本の価値を一人ひとりが認識することが重要である。この認識が社会全体や組織全体で共有化されることによって、SCの醸成を前提とした政策展開や制度設計、経済活動が生まれ、そこで成果があることによって、さらに価値の重要性を認識するという好循環が生

ソーシャル・キャピタルを醸成していくために

じる。その両方が揃わなければ循環することはない。
例えば、「SCが高い地域」では、「市民活動や相互扶助の取り組みが盛んである」とする。その場合、「SCが高いから、市民活動が行われている」という事象があり、次に「その市民活動がSCを醸成する、重要性を認識する機会を生み出している」という事象が続く。このようなSCと、それを醸成するための取り組みについては、

信頼・規範・ネットワーク

一人ひとりの意識と協働

常にスパイラルアップの関係にあることで、SCに基づく活動や行為が生まれていくのである。

- SC醸成のための政策とは
- 1. ローカル・ガバナンスの構築

SCを醸成すること、人々が、「信頼・規範・ネットワーク」を醸成してい

る。
2. 質の高いネットワークの構築
SCのもう一つの要素は「ネットワーク」である。これは、人と人とが交流・連携することによって育まれるものである。しかし、同じ場所に居合わせて顔も合わせる、知り合うということだけでは、SCとして評価できるネットワークとはいえない。お互いが一定の信頼に基づいた関係であることが重要である。この信頼関係は、どちらかが困っている時や助けを求めている時に、支えあうことができるような関係である。そのよう

った「ローカル・ガバナンス」を構築していくことである。質の高いネットワークを、人や団体、地域が構築していくためには、機会と場の創出はもろんのこと、その中で信頼関係を高めたいくことが協働の取り組みが重要である。そして、それらをコーディネートしていくことができる人材とスキルが求められるだろう。

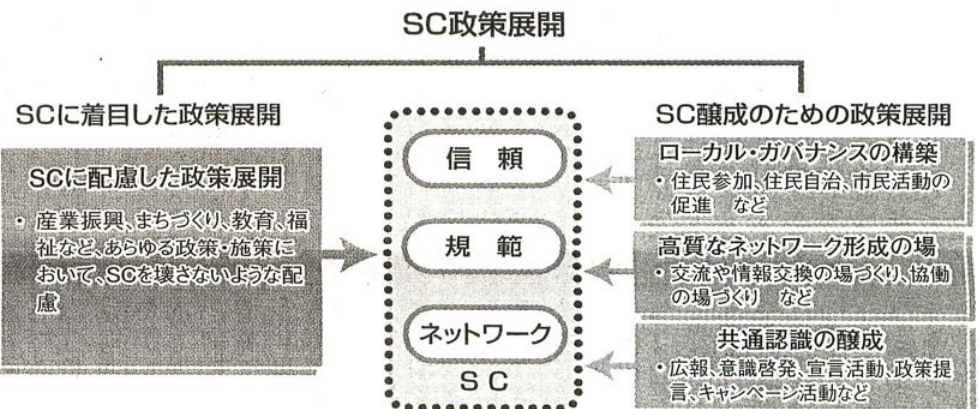
- 3. 共通認識の醸成

前章では、社会全体でSCという価値を認識・共有することが最も重要であると述べた。「SC」とは何を指しているのか、「SCを高めるとどういう社会が構築されていくのか」などを認識し、「そのために一人ひとりがどのような行動をす

日本総合研究所研究員 前田 直之



【略歴】早稲田大学大学院理工学研究科修士後、大手コンサルティング会社勤務を経て、07年2月に日本総合研究所入社。公共政策立案、自治体の各種計画策定、地方の観光振興政策立案、PPP関連等の業務に携わる。創造都市戦略クラスター研究員。



べきか」ということを広めていくことが重要である。これは、単なる広報活動にとどまらず、政策執行者や経営者などのリーダーシップをとる者が常に意識すること、変革を促すことが可能となる。またそのためには、「宣言活動」や「団体間による申し合わせ」、「キャンペーン活動」などによって積極的に啓発を促すことが効果的である。

■SCに着目した他分野の政策

必要である。

展開
SCそのものを醸成することだけではなく、既に醸成されたSCを壊さないという視点も、SCに着目した政策として重要である。例えば、ある地域において土地区画整理事業による開発が行われたとする。この再開発を、民間企業や行政が、住民不在で一方的に推し進めてしまったらどうか。住民に不信感が生まれ、今までの近所づきあいがうまく行かなくなり、SCが壊れてしまう。開発を進める主体が住民と十分に対話し、さらに住民間で

このような住民を巻き込んだまちづくりなどは、近年では当たり前の手法となっているが、SCという切り口で改めて見ると、その重要性を再認識することができる。このようなSCを壊さない政策、施策を積み重ねていくことも、地域にSCを醸成させ、定着させていくために